

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校・地域に愛される学校をめざす。

1. 学力の向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
2. コミュニケーション能力の向上
3. 地域連携の推進

2 中期的目標

1 学力の向上（学ぼうとする力の育成）

(1) 本校生徒に対して『授業のユニバーサルデザイン化（以下UD授業）』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。

- ア 本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通じた指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。
- イ 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。
- ウ ICT機器の活用をすすめ、教員の授業改善を行う。
- エ 規律ある授業が行えるよう、遅刻削減に取り組む。

※（令和6年度に遅刻総数が年間600件以下となるよう取り組む）（R3：5134、R4：2539 R5：1100）

(2) 生徒の学習習慣を確立させることを通して、生徒の学習意欲を向上させる。

- ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室）で、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。
- イ 読書習慣を確立して、読み取る力の向上に取り組む。
- ウ ICT機器を活用し、わかる授業で年度末の成績不振（欠席30日以下の生徒）をなくす。
- エ 探究の要素を取り入れた体験的な学びを充実させる。（教科、総合的な探究の時間の充実、放課後活動：「イベント・デイ」の開催）
- オ 少人数・ITによる授業、教科横断的な授業を多く取り入れ、学習の充実を図る。

(3) 生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。

- ア 義務教育段階の学力習得を目的とした茨田検定（振り返り学習）や習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。
- イ より発展的・応用的な学力の習得をめざす生徒に対する授業内容を充実し、授業以外の講習などを積極的に実施する。
- ウ キャリア教育の一環として生徒の進路に応じた講座を充実させ、それぞれの進路希望を実現させる。

※（生徒の進路が多様化するなか、令和6年度も進路決定率90%を超えるよう取り組む）（R3：84.5%、R4：95.1% R5：92.5%）

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出

(1) 安心・安全で、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。

- ア すべての教職員のコミュニケーション指導力を充実し、いじめの早期発見と組織的な対応に取り組む。
- イ 教職員ピアメディエーション（以下「PM」）研修を実施し、PMの理解促進及び普及を図る。
- ウ 安心できる居場所づくりとして「茨田リビング」を開設する。
- エ 安全・安心な学校づくりのため、災害や新たな感染症などに対応した危機管理意識の醸成を図る。（避難所体験の実施）

(2) 生徒のコミュニケーション能力を向上させる。

- ア 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る機会を充実し、いじめを起こさない生徒の育成に取り組む。
- イ コミュニケーションコースの内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。
- ウ 英語などによるコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図る。（プレゼンテーションを意識した英語授業）
- エ 面接指導等の進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。
- オ 障がい者・高齢者等に対する理解を育て、思いやりのある生徒の育成に取り組む。

(3) 教員の資質を向上する。

- ア 校内外の研修を積極的に活用し、人権意識を高め、生徒に寄り添い、課題を解決できる教員の育成に取り組む。
- イ 食物アレルギーや新たに起こる感染症などに対応し、生徒・教職員の安全と、学校行事や学びを守る取組みを図る。
- ウ 家庭や中学校、福祉との連携を行い、組織として中途退学や不登校の未然発生に取り組む。
- エ 生徒情報交換会議などで情報共有し、生徒理解のための指導体制を確立する。

※（令和6年度に3年生の退学者を0%となるよう取り組む）（R3：3.3%、R4：2.2%、R5：1.9%）

3 地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校）

(1) 地域連携を通して生徒を成長させる。

- ア 地域に育てていただいた感謝の思いを持ち、地域貢献のための活動をする。（閉校に向けた同窓生等のためのイベント開催）
- イ 地域の一部として活動を支援してもらうため、地域の人々を学校に招聘して理解を深めてもらう。（統合校である野崎高校との交流）
- ウ 地域の方や卒業生の先輩から人生のお話やアドバイスをいただく。

(2) 中学校との連携の充実

- ア 学校の活動を広く理解してもらうため、学校HPの充実に取り組む。
- イ 在校生の成長過程をより知ってもらうため、中学校との連携の充実に取り組む。

4 校務の効率化で働き方改革の推進

(1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

(2) 校務の効率化のため、組織、会議の改編を行う。

(3) 教員が共に助け合い、支え合うチーム学校として協働し、働きやすい環境をつくる。

※令和6年度に時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 学力の向上	1)『UD授業・楽しい授業・規律ある授業』の実現に向けた教員の授業力向上	1)		
	ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施	ア 管理職、首席、指導教諭が教員の授業、生徒指導、保護者対応を重点的に観察し、面談、声掛けなどを通して育成する。	ア・5人会（管理職・首席・指導教諭）で生徒教員の情報交換、課題解決に向けて話し合い、教員への面談、声掛けを行う。 目標：5人会開催 年12回以上[9回]	
	イ 教員相互の授業見学・研究授業の実施	イ・首席・指導教諭を中心に相互の校内授業見学を企画し、授業力向上を図る。 ・校外で実施される授業力向上に関連する研修、公開授業に積極的に参加。成果を校内で共有 ・UD授業の取組みで、本校生徒の理解がより深まる授業を実施	イ・1人3回以上授業見学を行い、フィードバックを行う。 [新規] ・研究授業・研究協議の実施 目標：3回[5回] ・「(自)生徒：授業はわかりやすく楽しい。」 目標：65%以上[64.9%]	
	ウ ICT活用による授業改善	ウ・校内のICT機器、大型プリンター等を活用し、UD授業の視点に立った教材の作成	ウ・「(授)授業内容に興味関心」 目標：3.6以上[3.6]	
	エ 規律ある授業に向けた生徒の遅刻削減	エ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を実施し、遅刻を防止する。 ・遅刻の回数に応じて、清掃指導等を行い、個々の生徒との接点を持ち、生活背景や改善に向けて話をするきっかけをつくり、生徒の意識に働きかける。	エ・年間遅刻総数 目標：600以下[1100]	
	2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上	2)		
	ア 放課後学習の場（自習室）を整備し、教員が個別指導できる体制作り	ア・考査前、考査中の自習室への教員常駐と生徒に対する個別学習指導の実施し、学習意欲を高める。 ・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、時期に応じた生徒の個別学習を充実させるよう、各教科が教材準備や指導を実施 ・授業開始後に5分の規律指導、さらに「振り返り」「漢字」「計算」など英数国を中心に、10分間の小テストを実施し、学ぶ意欲を醸成する。 ・茨田リビング（居場所づくり）の整備をすることにより、学びのサポートや楽しみ、安心感をもたせ、学校へ来ることへの定着、欠席数を減少させ、学力の向上を図る。	ア・自習室を考査前、考査中開室 ・「(自)生徒：日常的に放課後学校での学習や、家庭での学習をする」 目標：55%以上[53.2%] ・「(自)生徒：自分は高校生になってから学力がついた」 目標：72%以上[70.2%] ・「(自)生徒：学校に行くのが楽しい」 目標：65%以上[64.9%]	

<p>イ 読書習慣の確立</p> <p>ウ ICT を活用したわかる授業による、成績不振による留年の防止</p> <p>エ 探究の要素を取り入れた体験的な学びの充実</p> <p>オ 少人数・TT、教科横断的な授業による学習の充実</p> <p>3) 生徒個々の進路目標に合った学力の育成</p> <p>ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」や習熟度別、個別指導などの充実</p> <p>イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習の積極的な実施</p> <p>ウ 生徒の進路に応じた講座の充実による、進路希望の実現</p>	<p>イ・毎日の茨田検定の時間を利用して、年間を通じた「10分間読書」活動を企画し、読み取る力をつける。</p> <p>ウ・ICT機器活用による生徒の授業理解をすすめ、年度末成績不振(欠席30日以下の生徒)による留年を減少させる。</p> <p>エ・自ら考える学び、体験を通じた学びを授業に取り入れ、実践的な学習へつなげる。 授業：各教科、生活実践、総合的な探究の時間で校外活動も含め実施 放課後活動：「イベント・デイ」で季節行事や伝統的な学び、スポーツ等を実施し、行事に対する満足度も向上させる。</p> <p>オ・少人数・TT、教科横断的な授業を実施することにより、個々の生徒に丁寧に対応し、生徒の学習意欲や学習効果を高める。</p> <p>3)</p> <p>ア・「茨田検定(振り返り学習)」や「就職対策講座」等の充実で丁寧な進路指導をめざす。 ・各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、成績不振者への指名補習、個別指導を充実させ卒業する生徒を増やす。</p> <p>イ・応用的学力の習得のため、外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定・数検)等)を活用し、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。</p> <p>ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた講習を実施する。 ・充実した進路HRを展開し、就職希望者に対して、試験対策講座を実施することで希望進路の実現をめざす。</p>	<p>イ・10分間読書を実施 目標：年10日[10日]</p> <p>ウ・ICT機器の活用を進め、より分かりやすく丁寧な指導で成績不振留年者を減少させる。 目標：1名以内[3名]</p> <p>エ・生活実践、総合的な探究の時間で校外活動を実施する。 目標：各授業で1回実施[新規] ・「茨田リビング」を拠点とし、「イベント・デイ」の開催 目標：月1回以上開催[新規] ・「(自)生徒：茨田高校に入学して良かった」 目標：70%以上[68.1%]</p> <p>オ・「(自)生徒：まじめに授業に取り組んでいる」 目標：75%以上[72.3%]</p> <p>3)</p> <p>ア・「(自)生徒：きめ細やかな進路指導がなされている」 目標：75%以上[74.5%] ・卒業率の増加 目標：97%以上[98%]</p> <p>イ・生徒へ外部機関の資格試験実施の周知、希望者へ試験を実施。[新規]</p> <p>ウ・進学・就職希望者対象用講座を実施する。 目標：2講座[新規] ・希望進路実現のため、就職希望者の全員参加をめざす。 目標：全員[2名不参加] ・進路決定未定者の割合 目標：10%以下にする。 [7.5%]</p>	
---	--	---	--

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出	1) 安心・安全で、より良い人間関係作りの実現	1)	1)	
	ア 教員のコミュニケーション指導力の充実	ア・コミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化を図る。 ・いじめに対する教職員研修といじめ防止委員会の定期開催し、いじめの早期発見と対応に取り組む。	ア・コミュニケーション委員会・コミュニケーション担当者会議の実施 目標：5回[4回] ・「(自) 生徒：担任は相談や悩みに応じてくれる。担任以外にも気軽に相談できる教員がいる」 目標：平均75%以上[74.9%]	
	イ 教職員PM研修の実施による、PMの理解と普及促進	イ・教職員PM研修を校内で実施、生徒のPM認定試験を公開授業とし、校外にも普及を図る。 ・PMの技法を応用し、自分を大切にし、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。	イ・教職員PM研修実施 目標：年1回 ・「(自) 教員：カウンセリングマインドを取り入れた指導を行っている」 目標：88%以上[86.4%]	
	ウ 安心できる居場所づくりとして茨田リビングを開設	ウ・昼や放課後に家庭の居間のようにほっとできる場所である「茨田リビング」を開設する。友人や教員等とともに昼食やお茶ができ、会話の中で生徒の生活環境の把握や生徒が世間の一般常識などを自然に得られる空間づくりを行う。	ウ・茨田リビングを開放 目標：週1回以上開放[新規] ・「(自) 生徒：担任以外にも気軽に相談できる教員がいる」 目標：80%[77.4%]	
エ 安全・安心な学校づくり	エ・非常時に地域での役割を意識した防災体制の構築。防災計画の徹底と日常の点検、防災訓練での役割の具体化。 ・体育館で避難所体験を実施し、課題を見つけ、課題の解決について考えられるようにする。	エ・「(自) 教員：災害等に対して役割分担の明確化」 目標：88% [86.4%] ・避難所体験の実施 目標：年1回実施[新規] ・「(自) 生徒：学校で災害などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」 目標：80% [78.7%]		
2) 生徒のコミュニケーション能力向上	2)	2)		
ア 生徒のコミュニケーション能力の向上の機会充実	ア・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底する。 ・コミュニケーションをテーマとした「コミュニケーションHR」を実施し、コミュニケーション教育を充実する。 ・いじめを起こさない生徒の育成	ア・17項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施 目標：15/17項目以上で肯定的な回答の数値80%以上 [19/31項目で80%以上] ・コミュニケーションHR実施 目標：年3回[2回] ・「(自) 生徒：先生はいじめなどがあれば真剣に対応してくれる。」 目標：78% [75.3%]		
イ 『コミュニケーションコース』の内容充実	イ・「PM I」「PM II」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディエーター認定試験の合格者を出す。	イ・コース選択生徒アンケート「コースで学んで話し方や行動が変わった」 目標：100%[100%] ・メディエーター認定証取得者		

			の増加 目標：5名以上[4名]	
ウ 英語などの授業でプレゼンテーションの能力の向上	ウ・英語などの授業でプレゼンテーション能力を育成する場を設ける。	ウ・英語の授業等でプレゼンテーションを実施 目標：年1回以上 ・「(自)生徒：授業で自分の意見を発表する機会がある」 目標：60%以上 [58.1%]		
エ 進路指導を通じたコミュニケーション能力の向上	エ・希望する生徒への面接指導や、職場訪問による『働く人』とのコミュニケーション機会を増やす。	エ・学校斡旋就職希望生徒全員に応募前職場見学を実施 目標：1名あたり2社以上 [74社90名]		
オ 思いやりある生徒の育成	オ・支援学校や高齢者施設等との交流の場を設け、相互の理解を図る。	オ・支援学校や高齢者施設との交流会を実施 目標：年1回以上 [支援学校・高齢者施設交流]		
3) 教員の資質向上 ア 課題解決できる教員の育成	3) ア・各教員が外部研修等の内容伝達を職員会議で行い、粘り強く生徒へ指導する姿勢を持つことを、全教員が共有できるようにする。	3) ア・「(授)授業で知識技能が身につく」 目標：平均3.5ポイント以上 [3.62ポイント]		
イ アレルギー・感染症等への取組み	イ・最新の情報を取り入れ、食物アレルギー対応や感染症の拡大防止を図る。	イ・教職員研修を実施 目標：1回以上[2回]		
ウ 中途退学・不登校生徒への対応	ウ・家庭との連携を強め、その情報をもとに担任以外の教員もきめ細かな対応を可能にする。	ウ・「(自)保護者：学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」 目標：92%以上 [90.7%] ・「(自)保護者：学校は家庭への連絡を積極的に行っている」 目標：82%以上 [81.1%]		
エ 生徒理解のための指導体制を確立	エ・生徒が納得感を持つ生徒指導を行うため、毎週の学年会、教育相談委員会、生指部会で指導状況の確認、点検	エ・「(自)生徒：学校生活において先生の指導は納得できる」 目標：68%以上[65.6%]		

3 地域連携の推進	<p>1) 地域連携を通じた生徒の成長促進</p> <p>ア 地域活動への参加</p> <p>イ 校内での地域の人々との交流</p> <p>2) 中学校連携の充実</p> <p>ア HP の充実</p> <p>イ 中学校連携の充実</p> <p>ウ 地域・卒業生の先輩からのアドバイス</p>	<p>1)</p> <p>ア・閉校に向け、同窓生等への貢献ため、イベント開催</p> <p>イ・本校の取り組みや生徒の頑張りを理解してもらうため、PTA 文化教室に地域の方の参加枠を設ける。</p> <p>・統合校との交流により、行事の充実や初対面の人との対応力をつける。</p> <p>2)</p> <p>ア・学校 HP を更新し、最新の学校の姿を発信する。</p> <p>・災害時の対応、行事、授業参観案内等をプリント配布と共に HP、学習支援クラウドサービスに掲載し保護者にも周知する。</p> <p>イ・在校生の成長した様子が分かるような取り組みを行う。</p> <p>ウ・地域の方や卒業生の先輩から人生の目標や経験談などのお話、アドバイスを受ける機会を設定する。</p> <p>花や作物などの植え込みのサポートを受ける。</p>	<p>1)</p> <p>ア・閉校に向けたイベントの開催 目標：年2回以上</p> <p>イ・文化教室の実施 目標：年1回以上</p> <p>・統合校との交流 目標：年1回以上</p> <p>2)</p> <p>ア・HP 更新を維持する。 目標：40回以上[36回]</p> <p>イ・近隣中学校の在校生の状況を説明。 目標：20校</p> <p>ウ・アドバイス・サポートを受けた回数 目標：年2回以上[新規]</p>	
4 校務の効率化で働き方改革の推進	<p>1) 校務の効率化</p> <p>2) 校務の効率化のため、組織、会議の改編を行う。</p> <p>3) 教員が共に助け合い、支え合うチーム学校として協働し、働きやすい環境をつくる。</p>	<p>・働き方改革の観点から ICT 活用の推進により業務の精選・効率化を図り、超過勤務の削減に取り組む。</p> <p>・再編整備対象校として募集停止により、教職員の減員に対応するため、さらに組織、会議の改編を行い、校務の効率化をさらに推進する。</p> <p>・教職員が共に助け合い、支え合うチーム学校として協働し、心身ともに働きやすい環境をつくる。</p>	<p>・月 80 時間以上の超過勤務の解消。 目標：月 80 時間以上の超過勤務年間 0 名以下[0名]</p> <p>・会議の削減 目標：1 会議削減[1 会議削減]</p> <p>・教職員間のコミュニケーションを図る。 目標：「(自) 教職員：教育活動について、日常的に話し合っている」 目標：82%以上 [81.8%]</p>	